

武相教育

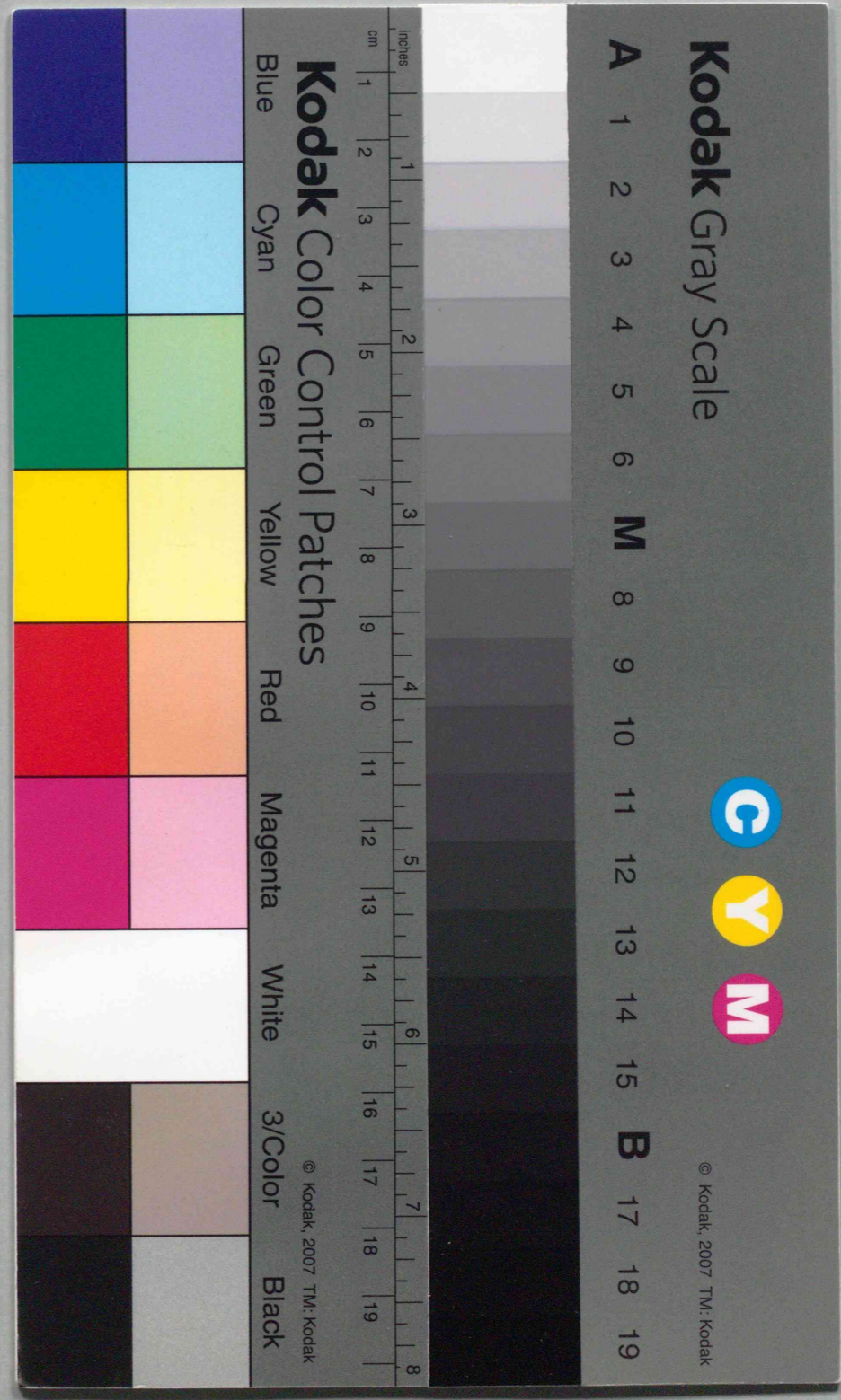


昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可
第七十五號

紀元二五九六年六月
創立五十周年記念號

目次

記念號發刊の辭	二
宣言	三
創立五十周年記念式並第一回總會概況	四
榮光に輝く教育功勞者	五
記念式並第一回總會事務分擔	九
神奈川縣教育五十年回顧展覽會	一〇
教育回顧展覽會陳列面積割當	一一
回顧展覽會出品目錄	一一
回顧展覽會記錄	一三
神奈川縣教育五十年回顧展覽會參觀記	一五
教育回顧展覽會の構相について	一七
兒童生徒の感激	二五
.....	二六
回顧五十年	三〇
七月の歴史	三二
各地通信	三三
會務報告	三五
昭和十一年度本會歳入歳出豫算案	三九
昭和九年度本會歳出決算	四〇
社団法人神奈川縣教員共濟會報告	四一
本會後援夏期研究發表講習會	四二
各地講習會紹介	四三
編輯後記	四四



記 念 號 發 刊 の 辭

本會は曩に時代の進運に鑑みて其の組織に大改正を加へ、教育報國の大旗を翳して將に躍進の第一步を踏み出さんとするの秋、會々創立五十周年を迎へ、其の祝典を兼ねて、茲に第一回總會を開催することゝなつた。

回顧すれば本會は明治二十年の創立に係り、當時は、やはり現在の如き會員組織にして、年々總會を開き、其の席上に於て、或は教育上重要な問題を討議し、或は學術上の講話を聴取し、或は時に進んで其筋に對つて教育上の建議をなす等其の活躍は實に目覺ましきものがあり、其抱負や遠大、其意氣や生氣潑瀾たるものがあつた。

然るに時勢の推移と共に會運漸く振はざるに至り、明治二十七年遂に會員組織を改めて各郡市教育會並教育關係團體の聯合組織となすの止むなきに立ち至つた。斯くして、本會の重要事項は各郡市教育會等より選出せる代表者の協議によつて決するといふやうな所謂代議員制(當時委員會と稱してゐた)を採ることになり、經費の如きも各郡市教育會で分擔することになつた。其の結果會員としての自覺を稀薄ならしむるに至り、會員の本會に對する關心が次第に淺くなり、本會の事業も、とかく生命の躍動を缺き、進展を阻碍せらるゝの憾みが尠くなつた。

爾來茲に四十餘星霜、其の間、時に改組の聲の起らぬでもなかつたが、成案を見るに至らずして、荏苒昨昭和十年に及んだ。

會々創立五十周年を目前に控ふるの時に方り、豫てより會運の振興を企圖せる役員職員諸氏は蹶起して本會の更生を策し、石井會長指麾の下に數々審議を凝らし、遂に本會規則の大改正を斷行し、愈々改組の實を擧ぐるに至つたのである。

改組の眼目は次の諸點である。

組織 從來各團體の聯合組織であつたのを全部個人會員組織に改めた。前にも述べたやうに従前の會則では、縣内教育者及篤志者は直接に本會の會員ではないから、本會に對する關心淺く、從て會の活動も遺憾な點が尠くなかつたゆえ、全く個人會員の組織として教育者との關係を一層緊密ならしめると共に、神奈川縣の教育者を打つて一丸としたる團結としたのである。

事業 従業の規則には、事業として概括的に擧げたるに過ぎなかつたが、時勢に鑑み、教育者の修養、教權の確立、互助救済、育英事業の經營等の項目を加ふることになつた。

會費 從來各郡市教育會の負擔金を小學校教員數に割當てると、一ヶ年一人約金三十錢弱となるを以て、學校教員たる正會員の會費は凡そ年額三十錢とし、其他の篤志者贊助會員の會費は年額金一圓以上とした。尙ほ本會に一時金百圓以上寄附した者又は教育上功勞ある者は特別會員として優遇することにした。

役員 理事中より幹事を置き常務に當らしむる事とし、又會計監査を設けた。

理事は各郡市より一名宛選出し、其他十名を會長に選任し、各方面を網羅し、夫々一定の時期に交任せしむるのである。

評議員は各郡市教育會の選出せるもの及び會長の選任せる者を置き本會重要な會務即ち會長副會長の選舉、豫算決算の議決承認會則の改正等に際し會員を代表する議決機關たらしむ。尙會長選任の理事評議員を置く理由を述べると、各郡市の本會員中より選出する者のみにては、動もすると、小學校以外の會員中より代表者を得がたき虞あるからである。依て評議員全數の三分の一以内、理事二十五名の内十名は會長に於て之を選任し、以て各方面の代表者を網羅することにした。

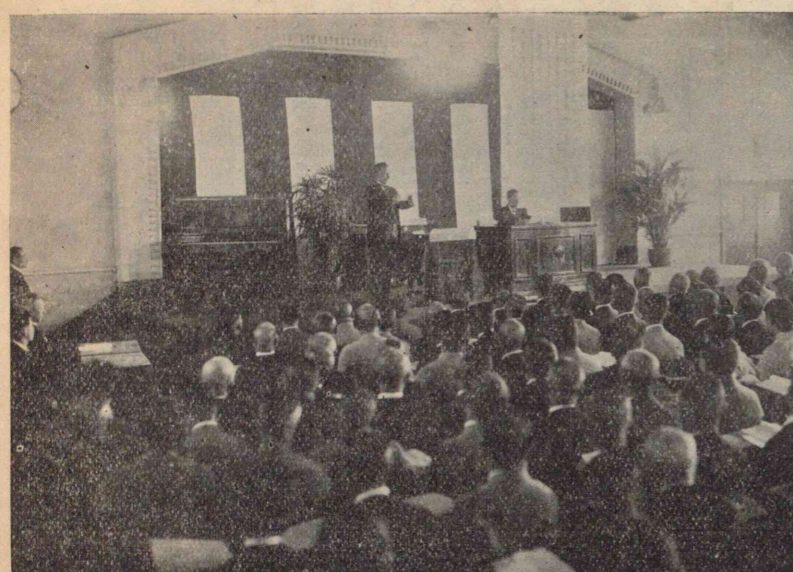
郡市教育會との聯絡 本會の最重要の議決機關たる評議員は、その三分の二を各郡市より選出することとし、又理事は少くとも各郡市に一名宛選任し、尙各郡市教育會長をば本會顧問とし、以て本會と郡市教育會との關係を一層緊密ならしめると共に會則施行細則を以て各學校長に委員を囑託し、以て學校と本會との聯絡を密接ならしめた。

總會 從來は聯合會なりしたため、總會を開くことが、出来なかつたが、今次の改正により毎年一回適當の地に總會を開き、意見の發表其の他の事項を舉行し、以て縣下教育者の意氣の連絡並に伸張を圖ることに力めた。

斯くて新規則は昨年四月より實施せられ、同六月までに會長副會長以下役員を選任を了へて、更生躍進の新陣容全く整ひ、茲に五十周年記念式を兼ね第一回總會を開催する段取りとなつた。此の大改組は、一面から見れば、五十周年の最意義深き記念事業とも見るべく、又他面から考ふれば、此の五十周年といふ意義ある年が、この大改組を産んだともいへる。大改組と五十周年、二にして實は一である。此の意味に於て記念式を改組第一回の總會と共に進行することの妥當性を認めるのである。

改組の幕は既に切つて落された。更生の意氣に燃ゆる六千有餘の相武の教育猛者は、老といはず、壯といはば、懸命の力を揮つて、教育報國の大旗ふり翳しつゝ、新使命に對つて、今や猛然として奮進を開始した。

皇國帝都の咽喉を扼する形勝の地に地歩を占めて、教育界の覇者を以て任せんとするの大抱負を懐ける本會の前途や實に多望なりと謂ふべきである。庶幾くは戮力協心、本會所期の目的の達成を期せんことを。是れ茲に記念號を特輯して、會員の自警自奮に資する所以である。



宣 言 決 議 の 刺 那

宣 言

國運隆昌ノ基礎ハ國體ノ本義ヲ明徴ニシ國民精神ヲ振作スルニアリ之ヲ明徴ニシ之ヲ振作スルハ一ニ教育ノ徹底ニ俟ツ、今ヤ邦家非常ノ時艱ニ際シ、教育者ノ任務益々重キヲ加フルモノアリ

本會ハ茲ニ創立五十周年ヲ迎フ多年本縣教育ニ寄與シタル功績ニ鑑ミ、愈々奮勵努力將來ノ發展ヲ企圖セザルベカラズ。

吾等ハ教育報國ノ大旗ノ下ニ自肅自疆教權ノ確立ニ努メ協心戮力忠良ナル國民ノ養成ニ邁進センコトヲ期ス。

右 宣 言 ス

昭和十年五月三十一日

神奈川縣教育會

創立五十周年記念式並第一回總會概況

昭和十一年五月三十一日横濱市中區山下町横濱市立専修商業學校講堂に於て本會創立五十周年記念式並第一回總會を舉行した。

この日朝来しとく若葉を濡らす細雨あり。やがて風さへ加はりたる中をいとはず、縣下各方面より來會する會員老若男女無慮千數百人、さしも市内に廣大を以て誇れる同校講堂も、定刻前すでに場に溢れるといふ盛況を呈した。

表彰狀授與

式は午前九時三十分開始、まづ大森副會長嚴かに開式の辭を述べ、莊重なる國歌の合唱について、教育勅語の奉讀あり。石井會長の式辭、櫻井主事の會務報告の後別項宣言文の議事に移る。石井會長議長席に就き、佐藤副會長提案の理由を説明し、金子(馨)幹事宣言文の原案を朗讀す。朗讀まさに了らんとする刹那正面天井のあたりより、壇上へ、する／＼と宣言の大書された幕が下ろされた。



會場の盛觀

石井會長乃ち之を議場に諮るや、滿場忽ち怒濤の如き拍手を以て賛意を表し、宣言はこゝに決定せられた。宣言文は前頁の通りである。

總裁告辭

續いて功勞者表彰に移り、別掲被表彰者伊藤覺念氏外六百餘名に對し、半井總裁より、それ／＼表彰狀記念品を授與すれば、滿場拍手を以て之をたゞへ被表彰者亦感激に胸うち震はせつゝ之を受ける。斯くして總裁半井知事の告辭あり。ついで文部大臣の祝辭(文部省參與官作田高太郎氏代讀)並に來賓として岩本縣會議長、青木横濱市長(額繼横濱市教育課長代讀)の祝辭あり。被表彰者總代として關野光之助氏答辭を述べ尙ほ被表彰者の一人三留喜之翁は感激に聲ふるはせつゝ、

大君の恵みの露にうるほひて
けふそ枯木に花の咲きぬる
と朗詠して感謝の意を表す。

是に於て大森副會長閉式を宣し、感激に滿ちた記念式並第一回總會は、極めて莊嚴の裡に會を閉じた。時方に午前十一時三十分。

來會者一同は控室に於て晝餐をすませ、三々五々打ち連れて、神奈川縣教育五十年回顧展覽會を參觀すべく野澤屋として出發した。

光榮に輝く 教育功勞者

一、教職員之部

在職年數	學校名	氏名
五十五年	光明學園	伊東覺念
同	千歲家政	山内茂三郎
五十二年	三留義塾	三留喜之
五十二年	神奈川高女	五十川民藏
五十一年	縣立盲啞	鈴木初太郎
同	共立女	湯淺いと
五十年	横濱女商	板谷里次郎
四十二年	川崎高女	杉浦秀治
同	大磯高女	小泉健作
四十二年	横濱高女	戸田猪三郎
同	フエリス	林サダ
同	宮谷尋高	高島硯司
同	神奈川高女	佐藤善治郎
同	御幸尋高	山田藤吉
同	横濱訓育院	キヤン・ニードレル
同	縣立工業	秋山岩吉
同	湘南中學	赤木愛太郎
同	富士見丘高女	澁谷近藏

會長式辭

神奈川縣教育會總裁 半井 清

昭和十一年五月三十一日

斯ク各方面ニ亙リ教育功勞者ヲ出シタルハ昔ニ本人ノ榮譽タルノミナラス誠ニ本縣教育界ノ慶事ナリト謂フヘシ、冀クハ被表彰者諸君自自重愛益々教育ノ進展ニ寄與セラレンコトヲ



慶賀ニ堪ヘサルナリ是レ前人ノ適切ナル計畫ト會員各位ノ協心戮力ノ結果ニシテ縣民ノ齊シク感銘スル所予モ亦此ノ機會ニ於テ多年本會ニ盡瘁セラレタル關係者各位ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表スル所以ナリ

テ日夜薰陶ニ當リ或ハ教育設備ノ充實ニ力アル後接ヲ致シ或ハ兒童生徒ノ保健衛生ニ貢獻シ或ハ使了勤務ニ範ヲ垂レタル等何レモ其ノ功勞顯著ナルモノナリ

本日縣下各地方ニ亙リ普ク多數會員ノ御參集ヲ得閣下並ニ各位ノ御臨席ヲ辱ウシ茲ニ本會創立五十周年記念ノ式典ヲ舉行シ得タルハ寔ニ欣快ニ堪ヘサル所ナリ

在職年數	學校名	氏名
五十五年	光明學園	伊東覺念
同	千歲家政	山内茂三郎
五十二年	三留義塾	三留喜之
五十二年	神奈川高女	五十川民藏
五十一年	縣立盲啞	鈴木初太郎
同	共立女	湯淺いと
五十年	横濱女商	板谷里次郎
四十二年	川崎高女	杉浦秀治
同	大磯高女	小泉健作
四十二年	横濱高女	戸田猪三郎
同	フエリス	林サダ
同	宮谷尋高	高島硯司
同	神奈川高女	佐藤善治郎
同	御幸尋高	山田藤吉
同	横濱訓育院	キヤン・ニードレル
同	縣立工業	秋山岩吉
同	湘南中學	赤木愛太郎
同	富士見丘高女	澁谷近藏

第二師道が嚴重に行はれたこと。
 第三師弟の情誼が極めて厚かつたこと。
 第四自治に對する訓練の行はれたこと等を擧げることが出来る。」
 と、寺子屋教育の特色を掲げて、現代教育の缺陷を諷した所、頗る我が意を得たりと謂ふべし。
 寺子屋教育の最後の幕(?)は七夕祭である。一人



校學小の期初治明

々々順番にお師匠様の前に召び出された所謂筆子が日頃鍛へた腕前をあらはすべく畢生の意氣込で、墨痕淋漓「天下……」と達筆を振ふかと見れば、その傍では、他の筆子どもが、其の作品を、おのがじ、篠竹の小枝に吊下げてゐる所だ。昔がしのばれて、ゆかしい。

舞臺は廻轉して、(實は參觀者が巡覽の歩を進めると)學制頒布の場面が現れる。
 まづ我が國是たる五箇條の御誓文の御寫し、並に學制仰出書が拜される。
 これぞ現代文化の基調!はた又教學の源泉!
 一般來觀者はこの前に來つて、齊しく、思はず襟を正す。
 次は教師兒童の服裝の變遷を示す場面だ。明治初期に於ける横濱學校門前の場。

稚兒髻の少女が前掛をかけ本包を肩から脇下にかけて脊負ひ、風呂敷包の辨當箱をぶらさけて行くよと見れば、向ひの方よりは腕白さうな男の子が、清書草紙を携へ、たが廻はしの遊技をしながら登校するといふ珍光景だ。星霜こゝに數十年、此の珍光景は全く昔語りの夢と化してしまつた。
 これと相隣して、教員學生等の服裝の變遷を示す場がある。

學生の服裝で先づ人の目を惹くのは、かの「衣は衽に至り袖腕に至る」の句を想ひ出させる、明治二十年頃の書生さんである。薩摩飛白に下駄穿きの勇姿凛々しく、ステッキを打ち振り、堂々闊歩して登校する所だ。その傍には藤色の被布を身に纏ひ、辨當包みをぶら下げた、つましやかな女學生さんが居る。明治三十年頃のスタイルといふことである。

教師の服裝の變遷で面白く感じたことは、明治初期には男教師は袴を着けたが女教員は袴を用ひなかつたといふ事である。然るに後に至り袴をつけ靴をはくやうになつたところが、「これは異風だ。」といつて縣令(今の縣知事)から注意を受けたさうだ。
 これに關し栗原清一氏出品に係る當時縣令の諭達

書の寫しがある。左の通りである。

郡 區 役 所
學 務 委 員

習風ノ奇異浮華ニ流ルヲ戒ムルハ教育上忽ニスヘカラサル儀ニ候處地方ニヨリテハ女教員及女生徒ノ内ニハ袴ヲ着ケ靴ヲ穿テ其ノ他異様ノ裝ヲナスモノアリ右等ハ獨リ其ノ習慣ニ背キ質素ヲ傷フノミナラス其ノ習風ハ延イテ他ニ影響スル所モ有之候儀ニ付服飾等ハ務メテ習慣ニ從ヒ質素ヲ旨トシ奇異浮華ニ流レサル様精々注意スハシ
 此旨諭達候事
 明治十六年五月三十一日

神奈川縣令 沖守固
 明治二十四年頃の男教員の服裝の一例として肋骨仕立の軍服まがひの洋服の實物が掲示されてゐる。高座郡は御所見校の井上治郎吉先生のお召しになつたものと註されてゐる。育英多年の功績を物語つてゐる心地がして、自ら頭が下つた。

隣つて現代の校服をつけた女學生の人影が並んでゐる。頭のとつぺんから足の爪先まですつかり洋式だ。「半世紀の間に斯うも變るものか。」と、前者と見比べて、今昔の感に堪へない。
 次に「昔の音楽」といふ標題の下に、「青年教師が荷車に、ベビートルガンと、春に容れた理科器械とを載せて挽き、後より、其の妻君と覺しき、束髪袴、靴といふハイカラな扮装の婦人が、車の後押しをして行く繪畫が觀者の注目を惹いてゐる。その説明書を見ると、

伊東先生の音楽教授 (明治二十三年頃)
 明治二十三年東京音楽學校教授鳥居枕氏經營の東東神田小川町にありし東京唱歌會(用田小學校)

小田原第一 星野増藏
 小鮎尋高 中村スミ
 萩野尋高 清水善茂
 湘南尋高 伊藤義邦
 共勵尋 加藤銀藏
 師範 吉名喜市
 女子師範 結城權兵衛
 同 會田慶司
 一中 片野孝三
 同 吉原洲三
 二中 石野 瑛
 川崎中學 五十嵐 米八郎
 小田原高女 高島光太郎
 鎌倉高女 元泉ミヨ
 相原農蠶 遠藤誠一
 商工實習 山本政人
 平塚高裁 清水勝雄
 光明學園 小林重良
 磯子尋高 牧野鐵五郎
 磯頭尋 須藤與三郎
 壽尋高 藪島兵藏
 同 安齋三郎
 同 大島芳造
 日野尋高 海老塚清明
 同 猪俣 操
 西前尋高 富田茂雄
 三ツ澤尋高 馬場工作
 子安尋高 清水信行
 同 東尋高 高林ナミ
 同 杉田尋高 野本ノブ
 同 根岸尋高 兩毛シナ
 同 立野尋高 露木君藏
 同 青木尋 壽金平
 同 市場尋高 金子銀次

二十五年

幸ヶ谷尋高 高橋時雄
 生麥尋高 宮本銀一
 衣笠尋 小宮四郎
 田戸尋 金子堅司
 澤山尋 高橋眞太
 豊島尋高 梶谷繁吉
 諏訪尋高 石渡源七
 同 近 藤 健
 幸町尋 堀江源藏
 大島尋 飯島又右衛門
 中川尋高 角井元次郎
 中山尋高 鈴木祐作
 義胤尋高 荒井友三郎
 逗子尋高 根本直輔
 走水尋 根本直輔
 三崎尋高 福本彌太郎
 同 小松伊志
 同 村上信二
 同 大野勝五郎
 同 大岡義一
 同 寺内時二
 同 三橋正太郎
 同 川上尋高 梅澤嘉藏
 同 鎌倉第二尋 山口 萬
 同 御成尋高 安西義一
 同 澁谷尋高 目代美佐吉
 同 有馬尋高 坂本福知
 同 明治尋 高橋憲吉
 同 旭尋高 後藤 繁
 同 大磯尋高 原 一
 同 秦野尋高 古谷順一郎
 同 東秦野尋高 古瀬耕三
 同 川村尋高 細田敬三
 同 南足柄尋高 石川督哉

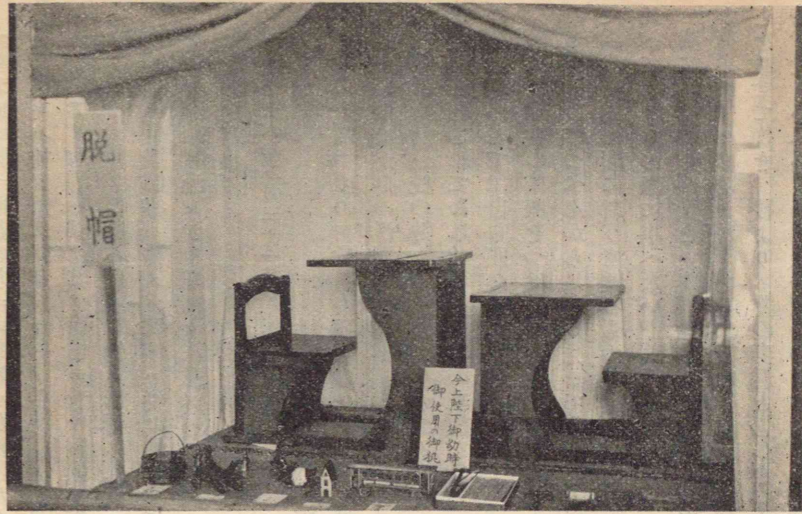


遷變の品用學と樂音の昔

理科の實驗をするなど、時代の尖端を進んで行つた。
 相隣りして少年音楽隊演奏の圖が出てゐる。説明書に曰く、

少年音楽隊 (明治二十七年頃)
 明治初年に横濱で洋式訓練をした頃から、洋樂が流行して來たが、これが追々に社會民衆化されて

少年音楽隊などが出来るやうになつた。殊に明治二十七八年戦役當時からは、各地に音楽隊が出来て、「マーチ」「ワルツ」「ポルカ」などの洋楽を吹奏して出征凱旋の将卒のために盛んに氣勢を揚げた。



今上陛下幼時御使用の御机

次は學用品の變遷を示す場面、まづ「寺子屋の習字」と題し、寺子屋で用ひた文庫の實物や、清書草紙や、墨黒々と塗りつぶした手習雙紙等が掲げられてゐる。

唐風の笈も安置されてゐる。佐藤一齋先生の御使用用品と註されてゐる。笈を負うて東都に遊學すといふ語は古書に残つてゐるが、實物を見たのは今日が初めてだと見入つてゐる観者が多い。こゝで特に參觀人の微笑を買つたのは、仔細ありげに吊下げられてゐる一本の鞭である。その説明には、

「教育に従事することを『教鞭をとる』といつたこれが用途は様々にて、悪戯者や覺えの悪い子供等には相當苦手であつた。」と、其のかみ實地體驗をやりたりけん、觀衆中の一紳士が感慨無量といつた面持で、携行せる愛兒に、何やらん諄々と物語るのをかしかつた。

平塚第一校出品の通學草履、薬細工の草履である。今では田舎でもこれは影をかくしてゴム靴が代つてゐる。

富塚學校出品の明治六年六月、同七年七月の日記は珍品である。宮内省蔵版で、その昔各學校に頒布された幼學綱要の實物も並んでゐる。

神奈川縣最初小學校課程表も珍品の一つ。次は明治時代の學用品の變遷にうつる。最初に「脱帽」の注意書きも嚴かに、紫の幔幕を垂れて、畏きあたりの御貸下品、高貴方御使用の學用品が安置されてゐる。

今上天皇陛下學習院初等科御在學の當時、御使用遊ばされたる御机二脚、下々使用の品と何等かはりなく拜されるにつけても、御質素の程しのばれて、拜觀者いづれも襟を正す。なほ伏見宮殿下御下賜品、澄宮殿下の御使用の御玩具類等もゆかしく且つ尊く畏くも、

拜された。

次は教科書の變遷、明治四五年に用ひられた智慧の環や、同六年頃の「糸」椅子」の單語篇附府縣名の掛圖、すつと降つて「ハト、ハ」ハナ、トリ」「ハナ、ハチ」等の範語法による教科書をはじめ、「サイタ、サイタ、サクラガサイタ」と、最初から文章を提示せる彩色繪入の現行教科書まで、ずらりと顔を描へて讀本の變遷を語つてゐる。打連れたつた婦人の一團が、その愛兒を顧みて「お母さんたちが一年生の時は此の御本で」となつかしき昔語り、しばし相つぐ。

この外に修身、地理、國史等の新古教科書も陳列されてゐた。地圖の中に、明治二十八年には臺灣、同三十八年にはカラフト南洋といつた調子に、次第に擴大する皇國領土の膨脹ぶりを一々地圖の上に色どりで現はしてあるのを見受けたが、よい趣向だとなづかれた。

歩を進めると、「昔の教授」と「今日の學習」との兩圖が肩をならべて、教育法の變遷を語つてゐる。机もなく、長い腰掛に列座して、單語篇掛圖について注入式教授を受けてゐる昔の兒童と、理科實驗机を圍んで、おのじ、酸素捕集の實驗に熱中する自發的學習態度の現今の兒童とを見較べた時に、教育法の進歩の格段なるのに驚かぬものはない。

次は「體育の變遷」といふ標題の下に、啞鈴體操柔軟體操實演の圖が掲げられ、棍棒の實物も出品されてゐる。

向ふ鉢巻で鐵拳を固めて、小腰をかぎめ、將に馳せ出さんとする昔のスタートと、「オンザマーク、ゲ

表 彰 狀 (氏 名) 殿

本會役員トシテ其職ニ盡瘁セラレシコト多年功績顯著ナリ茲ニ本會創立五十周年式典ヲ舉グルニ當リ(賞品)ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十一年五月三十一日
神奈川縣教育會總裁
從四位勳三等 半井 清

國府津尋高	山口吉五郎
足柄尋高	關田辰五郎
宮城野尋高	綾部美治
早川尋高	小野口民藏
小田原第二尋	矢野トシ
厚木尋高	毛利隆茂
中澤尋高	前田繁一
三井尋	梅澤米壽
一中	高田佐十郎
二中	田村六郎
秦野中學	袴田集義
高津高女	上杉セツ
神奈川高女	佐藤ヤス
縣立盲啞	村田幸次郎
同	比企隆三郎
同	湯淺定
同	山室清吉
同	千代尋高

表 彰 狀 (氏 名) 殿

本會役員トシテ其職ニ盡瘁セラレシコト多年功績顯著ナリ茲ニ本會創立五十周年式典ヲ舉グルニ當リ(賞品)ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十一年五月三十一日
神奈川縣教育會總裁
從四位勳三等 半井 清

横濱市神奈川區南輕井澤	瀧澤又市
愛甲郡三田村	曾根藤三
縣立工業	秋山岩吉
關東學院	坂田祐
横須賀實科	佐々木章治
縣教員共濟會	高城研

表 彰 狀 (氏 名) 殿

學務委員トシテ在職セラレ、コト(年數)終始一貫克ク教學ノ發展ニ寄與セラレ其功績顯著ナリ茲ニ本會創立五十周年式典ヲ舉グルニ當リ(賞品)ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十一年五月三十一日
神奈川縣教育會總裁
從四位勳三等 半井 清

足柄尋高	森 丑太郎
藤澤高	仙田四五郎
戸部尋	齋藤元近

三、學務委員之部

表 彰 狀 (氏 名) 殿

學務委員トシテ在職セラレ、コト(年數)終始一貫克ク教學ノ發展ニ寄與セラレ其功績顯著ナリ茲ニ本會創立五十周年式典ヲ舉グルニ當リ(賞品)ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十一年五月三十一日
神奈川縣教育會總裁
從四位勳三等 半井 清

在職年數	町村名	氏 名
三十六年	中郡國府村	近藤市太郎
三十二年	千木良尋高	小島八太郎
二十八年	金澤尋高	安田新五兵衛
二十七年	青根尋高	豊岡嘉二平

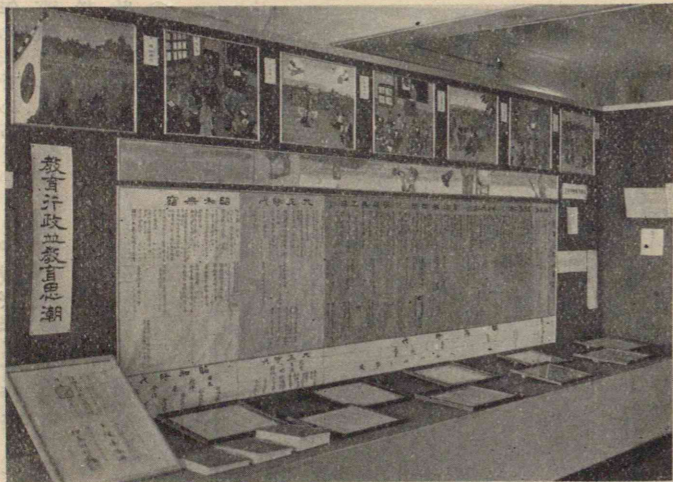
四、學校醫之部

表 彰 狀 (氏 名) 殿

學校醫トシテ學校衛生ノ普及並生徒兒童ノ體位向上ニ寄與セラレコト(年數)其功績顯著ナリ茲ニ本會創立五十周年紀念式典ヲ舉グルニ當リ(賞品)ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十一年五月三十一日
神奈川縣教育會總裁
從四位勳三等 半井 清

在職年數	學校名	氏 名
四十二年	腰越尋高	中村春次郎
三十九年	青根尋高	豊岡嘉二平
同	中川尋高	相澤益造

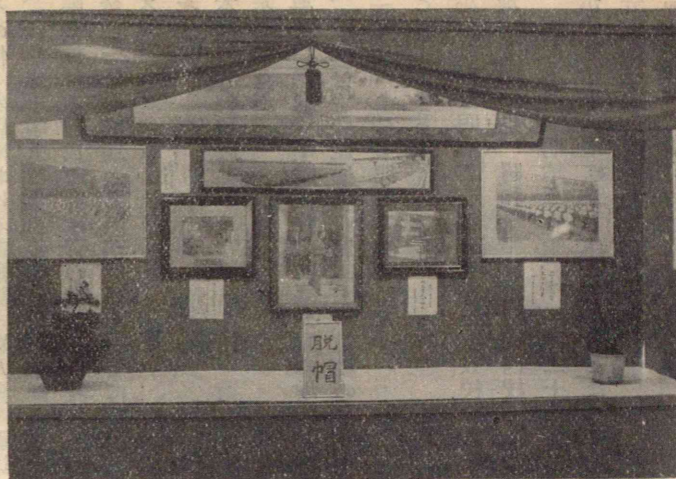


教育行政沿革史一覽表

取調書(明治七年四月)が掲示されてゐる。平塚新宿高瀬慎吾氏の出品である。これによると當時は教員の給料月額四圓から九圓止りである。正に現今の十分の一以下。しかし當時は物價も同率に低廉であつたから、生活の安定は勿論保障されてゐたわけだ。

教育行政沿革史一覽表が掲げられてゐる。その中に教育思潮概観といふ一欄を設けて、教育思潮の變

本縣小學校一覽(地圖に記入して)等の諸表が掲げられる中に、特に觀者の目を惹いたのは、中等教育以上の學校の設立順並位置を地圖上に電球の點滅によつて示せる装置であつた。それ、神中が點いた! 今度は厚木中學だ!」といった調子に次々に點燈するので、多くの



榮 光 の 育 教 縣 本

觀覽者の足を止めさせた。「震災と教育」といふ題で小學校露天教授やテント學校等の繪が出てゐる。思はず悲惨の極みなりし當時を想起させて、觀覽者の心を塞うさせた。最後に教育參考資料として、次のやうな、くさぐ

さの有益な資料が陳列されてゐる。

- 一、教育記念事業
横濱市兒童遊園を初め各種の記念事業が表示されてゐる
- 二、縣下における 明治天皇御聖蹟圖
- 三、優勝旗のくさぐさ
- 四、本縣教育の名譽の一例
この五十年間に於て其の筋から表彰され受賞せる縣下教育功勞者や優良學校等の表彰狀賞状や記念品賞品等の一部が陳列されてゐる。
- 五、本縣教育の光榮
昭和四年四月二十三日震災復興の狀況を禱はすべく、今上天皇陛下御臨幸の砌、横濱尋常小學校に御立寄り遊ばされし當時の御寫眞を初め奉り、昭和二年秩父宮殿下の横濱三吉小學校へ御成の際の御寫眞等を奉掲して、優渥なる 皇恩を仰瞻し奉るやうにしてある。
- 六、郷土の誇
と題し各郡市別に其の郷土の誇らしき名勝舊蹟神社古刹等の油繪が掲げられてゐる。
横濱市 雄々しき出船
横須賀市 軍艦三笠
川崎市 工業港灣都としての川崎市
平塚市 教育都市としての平塚
久良岐郡 金澤九覽亭より八景を望む
橋本郡 多摩川畔の桃梨園
都筑郡 豊けき田園
三浦郡 漁場の今昔
鎌倉郡 鶴岡八幡宮
高座郡 國幣中社寒川神社
中 郡 大磯照ヶ崎より高麗山及大山を望む
足柄上郡 二宮先生出生の聖地を繞りて(十文字橋)

在職年數	學校名	氏 名
五十九年	逗子開成中	鈴木長利
四十七年	鎌倉高女	小林鏡之助
四十六年	平塚高裁	相澤英次郎
四十二年	足柄實科	木村六郎
同	二中	室田秀次郎
四十年	壽尋高	亞厂雄治
同	商工實習	齋藤常次
三十六年	綾瀬尋高	小島清平
三十四年	山崎尋	渡邊 包
同	田奈尋高	中山繩三郎
同	商工實習	小野誠三
三十三年	日吉臺尋	川 田 融
三十二年	南吉田尋	小松門治
同	船越尋高	奥井金太郎
同	北下浦尋高	米本純幸
三十一年	小田原中學	添田豊太郎
同	大島尋高	小澤眞一
三十年	澁谷尋高	石井愛治
二十九	伊勢原尋高	和田貞次郎
同	田代尋高	齋藤村三郎
同	岡野尋	岡部忠助
二十八	旭尋高	霧生鶴太郎
同	平塚第二尋	小早川俊作
二十七年	共進尋高	國領平四郎
同	神奈川尋	岩 本 イ ネ
同	衣笠尋高	原 勇 吉
同	豊島尋高	宮村ふみ
同	鎌倉實科	西川ナヲ
二十六年	高部屋尋高	堀江ミサヲ
同	南下浦尋高	飯田六輔
同	一中	笠村唯七
同	愛甲農蠶	村田又三郎
同	船越尋高	有賀ヲク

道了山、川村城址、瀧水瀧、藤原範茂卿墓)

- 足柄下郡 報徳二宮神社
 - 愛甲郡 厚木中學より御幸山を望む
 - 津久井郡 津久井溪谷與瀨神社
- 七、現代教育科學資料(山越工作所出品)
(メンタルテスト用の智能検査機)
- 疲勞回復に用ひる空氣イオン發生装置
(陽イオン陰イオンを各純粹に發生する装置)
- 書字動作の實驗的研究(武政太郎氏著)
附實驗機械
- アイコフスコープ
(實物映寫、普通幻燈、顯微鏡幻燈)
- 八、體育衛生資料(山越工作所出品)
○扁平足測定
○簡易紫外線強度計
○肺活量計、握力計

等、現代教育科學の粹を集めてゐる。

以上で一わたり巡覽を了へた。僅々一二時間の中に、走馬燈式に、多種多量の教育的收穫を得た嬉しさの押へ切れぬものと同時に、これまで仕上げられた展覽會係員各位の數日間不眠不休の辛勞のほどが、そゞろに想ひ浮べられて感謝の念に堪へない。聞けば「服装の變遷」についても、當時の結髪形式から衣裳の縞柄はいふも更なり、髪飾り、簪の末に至るまで仔細に吟味し、或は之を風俗畫報に徴し、或は劇場に就きて俳優等の専門家に質しなどして、新規に之を調製せしめて使用されたといふ話である。道理で、觀覽者中の一婦人が「わたしの若い時分の髪形、着物の縞柄は、ほんたうに此の通り

だつたわ。」と、なつかしげに、しげ／＼見入つてゐるのを見た。「唯見れば何の苦もなき水鳥の」てふ古歌の文句ではないが、表に現れぬ係員各位の隠れたる苦心辛勞の數々に對して、深甚の敬意と謝意を表して筆を擱く。

教育回顧展覽會の

構想について

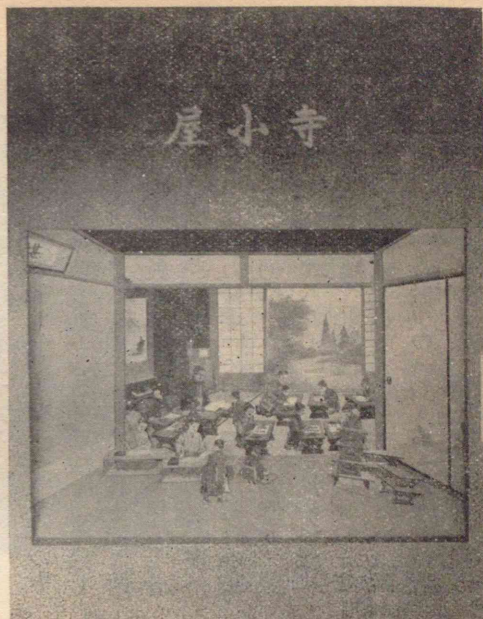
鈴木委員

教育五十年回顧展覽會に自分が關係したのは本年二月下旬であつたので大體のプランは既に整つて居つたのである、會場が伊勢佐木町の中心たる野澤屋であることを聞いて展覽會の盛況を豫感したが、教育の事は兎角地味であるし眞面目でなければならぬことがデパートの經營政策に合流し得ないのではないかと懸念された、果せるかな野澤屋からは大衆本位にこの注文が出て来た、元來前々からの委員會の決議を見ても從來の展覽會とは趣向を變へることになつてゐるので此注文は當然のことと思つたが、偕て實施上のプランを立てる場合になると中々思ふやうには行かなかつた、興味中心にすれば教育の尊嚴を害ふ心配があるばかりでなく、教育の系統を無視しなければならぬ、系統に重きをおけば大衆には向かなくなるので結局或部分は興味的に或部分は系統的に配列するやうに體系を作らざるを得なくなつたのである、體系が決定してから各委員が慎重審議して作り上げた構想の重なるものは次のやうである。一、寺小屋教育は學校教育の前提として一部門を作

賞 品

三十五年以上	銀杯一個
三十年以上	木杯一組
二十五年以上	木杯一個
校醫學務委員	木杯一組
一般功勞者	銀杯一組
役 職 員	銀杯一組

二十五年	田戸尋	長野ヒデ
同	玉川尋高	淺摩近三
同	平塚農業	村澤 戊
同	日枝尋高	上島まき
同	青木尋	砂川孝平
同	南太田尋高	矢田部直三郎
同	川村尋高	磯崎覺平
同	稲田第三尋	井田ヨシ
二十四	北方尋高	櫻井 助
同	戸部尋	關 み さ
二十三年	吉田尋高	淺井こと
同	小田尋	田 中 稔
同	吉田島農林	青木寛六郎
二十一年	南吉田尋	佐 藤 秀
同	豊岡尋高	岩 田 孝 一
同	平沼尋高	渡邊おたい
同	坂本尋高	根岸義勝
同	瀬谷尋高	山口麟太郎
二十年	壽尋高	松澤シナ
同	池上尋	鈴木トミ
同	依知尋高	瀧澤義道



手習の場

各種の資料を展示すると共に教育機關を一目瞭然ならしむること。

一、教育参考部には行幸啓、詔勅に關する特別陳列所を設くる外、四市十一郡夫々の特長を表現せる所謂郷土の誇りを特設し、更に現代の教育的科學資料を陳列して實驗すること。

右の如き構相に基いて夫々の資料を蒐集又は製作して陳列することになつたが、自分が擔當した部門の中で最も困難を感じたものは服装の變遷であつた。小數の人形を使つて而も時代の特長を現はすことは無理



服装の變遷

であつた。人形の頭髮を如何にすべきか、衣服の仕立、生地、品柄、姿態を初めとして裝身具履物に至るまで如何にして之を時代的に調和せしむべきかは頗る問題であつた。而も専門家の前にお目見えさせるのであるから出鱈目のものを出す譯に行かないので野澤屋の主任と相談して結局、人形は有名な平田人形師に依頼し、頭髮は風俗史などの考證によつて一流の結髮師に結ばせ、服装は歌舞伎衣裳専門店の倉庫の中から選擇してどうやら一通りのものが間に合つたのである、他の部門擔當の委員についても色々の苦心談はあるが之れは他日御發表を願ふこととして最後に會場たる野澤屋が仕構やセツトなどを立派にして呉れたので出品物が見映えしたことを感謝する次第である。

兒童生徒の感激

共進校 尋四 阪上 澄夫

五月三十一日の事である。

親類の茂ちやんが今日は東京へ歸る日だから、お土産を買ふからといふので僕は茂ちやんのおともで野澤屋へ出かけた。

お土産のお菓子を買つて野澤屋を出やうとすると教育展覽會があるといふので、六階へ上つて展覽會を見ることにした。會場についてみると、色々のものがあつたが、中でも一番僕の目をひいたものは、天皇陛下の御机であつたが人だかりは、こゝが一番多かつたので中々見えな。せのびして、

大ぜいの人の肩の間からくびだけ出してのぞいてみた。

むねにきしやうをつけたかゝりの人が、

「この御机は、天皇陛下が御小さい時おつかいになられた御机であります。天皇陛下は冬でも、さぶとんを、おしきにならないで、ごべんきやうをなさつたといふそうです。」

とせつめいしているらしいがはつきりきくとれない。とつぜん、茂ちやんが、

「ぼうやぼうしをとりなさい」といつて僕のぼうしをとつて手渡してくれたのでひよいと横をみると、「だつぼう」とすみで黒く書いてある大きな板が立てゝあつた。後からおしてくる人にもまれ／＼ながら御机の前へ出た。こゝばかりはていねいに室全體には紫色の、きれのまくが張りまはされ、其の床には青いきれがしかれ其の上に御机やしかけやいろ／＼のおもちやがさがられてあつた。御机にはかざりもなにもついてないし、にすがぬつてあるばかりでほんとうにおさまつたものであつた。そばには冬でもさぶとんもつかれないでべんきやうをなさつたといふこしかけもある。机の前には、いろえんぴつやおもちやが、かざつてある。いろえんぴつはまだ十七、八、センチぐらいのこさ

れてゐるし、おもちやの、自動車は、とても小さくて色もすこしはげかゝつてゐるし、家のおもちやはやねが赤色で、下がさくら色のせいようかんであつたが、僕の子供の時に父さんから買つていたとい

共進校 尋四 佐藤 照子

五月三十日の日曜日に野澤屋へ、教育の展覽會を

見に行きました。お父さんに連れられて、兄さん、妹の四人で行きました。野澤の六階へ行きますと、始の方は地圖や、しゃしんでした。だん／＼見て行きますと、いろ／＼の珍しい物が、たくさん並べてあつて、見物人がとても大ぜいでした。次々見て行くうちに、まくをはつた前に、大ぜいの人が集つて説明を聞いて居られる所へ行きますと、お父さんは「だつぼうしなさい」と、言つて帽子をとられました。そこにはおそれおほくも、天皇陛下の御小さい時にお使ひ遊ばされた、御机や、いすや、澄宮様のお使ひあそばされたふで入れ、えんぴつなどが並べてありました。お父さんから其のお話を聞いて驚きました。私は、天皇陛下の使ひになる御品は、金や銀やりつばな物で作られた御品ばかりだらうと思つて居ましたのに、御机といひ、いすといひ、私たちが使つて居ると同じやうな品の物でした。私は日本一の尊い御方でありながら、こんな御しつそな御机や、御いすで、御勉強遊ばされたかと思ふと天皇陛下の御徳がありがなくなつて、胸の中が一ぱいになつて體中あつくなるやうな気がしました。日本國民の父として、あほぎ奉る、天皇陛下が御小さい時、こんな御しつそな御生活をなさいました事を私どもは大いにかへりみなければなりません。私は此の展覽會を見て、平生ぜいたくな物を買つてもらつてゐるのに、まだあれもこれもよい物をと、お父さんや、お母さんにねだつてゐたことが、はげかし

く、そしてつたと思ひました。それから又いろ／＼見て歸りました。

保土ヶ谷校 尋六 小野 弘直

「脱帽 今上天皇陛下御幼時の御机」

と印されたガラス戸の前で僕は「ハツ」と歩を留めて思はず帽子をとつた。

其處は野澤屋の教育展覽會々場である。ガラス戸の中白布の上に置かれてある御机、木といひ、作りといひ、僕達が毎日使つてゐるものとすこしもちがはない。

「これが天皇陛下の御机……」

全く驚いてしまつた。日頃僕達は、天皇陛下の御使用なされるものはどんな御立派なものかと思つてゐたのに我々國民とすこしも變らないものを！ほんたうに恐れ多いことです。

僕はもうこれから決してぜいたくなことをするのは止めよう、ぜいたくな事をしては、天皆陛下に申しわけがない、と、しみ／＼感じた。

日本は今非常時代。僕等が少し注意して質素儉約を守つたならば、國防費なんかなくてもいい。さうしたならば、天皇陛下の大御心を安んじ奉ることが出来る。これこそ我々小國民のなさなければならぬ重い務ではなからうか。

人波に押されながらもあの御机の事が思ひ出されて、こんな事を考へながら屋上へ出た。

縣廳の屋根に日の丸の大國旗が勢よくひらめいてゐた。

生麥校 尋六 湖上 國夫

五月三十一日から六月三日まで野澤屋で開かれた神奈川縣教育五十周年記念展覽會を、お母さんと一しよに見に行つた。最初目についたのは昔の女の生徒の登校姿で、女の生徒は髪の毛をちよんまげに似た形に結んだ風呂敷包を背負ひ、男の子は股引をはいて學校へ行く姿などが、お人形で出来てゐまし

た。僕のお母さんも幼い時、此のやうな姿をして學校へ行つたさうで懐しさうにしばらく立止つて見てゐました。昔の寺子屋や運動につかつたものなどいろいろ見ると紫色の幕がはられ、脱帽と書いてあつたので帽子を取つて静かにすゝみました。そこには、天皇陛下の御幼少時代御使用になつたお机や、澄宮様の玩具を拜見しました。よく見るとごく粗末なお机で別段特別の色付けやつやのある塗りのなどもしたあとがありません。これが、天皇陛下の御幼少の御時の御勉強のお机だと思ふとその尊さその氣高きその質素さに自然と頭が下るのを覺えました。そして今の僕等の學用品や勉強道具、筆鉛筆のぜいたくな、そしてそれ等を何の惜し氣もなく無駄に粗末に使つてゐる事を思ひ出して誠に恐れ多い事だと思ひました。かうした感じは決して僕ばかりではなからうと思つてゐます。あのお品の前に脱帽して静かに拜してゐる何千人の老人も子供もきつとさう思つたに違ひありません。お母さんがもう夕方近くなつたから降りませうと急いで降りましたが、僕達下々の者が、天皇陛下の御品を拜見することが出来たので有難さで胸一杯になりました。

幸ヶ谷校 尋六 村 松 敏 子

雨がしと／＼と降り出しました。空はまだ暗くて晴れさうもない。私は此の日約束通り裏の叔父さんにつれられて、伊勢佐木町の方へ出かけました。其の途中學校で先生から話されたことを思ひ出し、叔父さんに云ひました。「ねえ叔父さん、野澤屋の六階に教育五十周年記念の展覧會があるのよ、見て行きたいわね」叔父さんは「ほうめづらしいな、では見に行かう」と云ひました。電車を馬車道で降り、す

ぐに野澤屋に行き、エレベーターで六階に上つた。大きな看板へ教育五十周年記念展覧會場と、しるされてあります。三人は其の中へはいつて見ました。まづ一番初に、目に入つたのは、昔の寺子屋の様子次に、おしと、つんぼの學校の子供達が、こちらへた、ちく音機の様な物でありました。それをしばらくみてゐると、其の次の所は人々がたくさん集まつて小聲で何か話をして居ます。見ると、上には紫の幕が、つけてあり、中には疊がしいてある。よく見ると、今上天皇陛下 御使用品と書いて、ごく、おそまつな、御机がありました。私はつく／＼思ひました。なんと云ふことだらう、御身分の高い御方の御使用あそばされた御品とは思へません。こちらを見ると、澄宮殿下御使用品と書いて、しやべるや、ばけつ、きしや、又右を見ると、伏宮殿下御使用品として、御筆入、繪本又は、鉛筆など、それ／＼の品物はごく御質素であらせられます。私は驚いてしましました。何ともいへない感じがしました。しぜんと頭が下る様な心持になり、そして云ひ知れぬ尊さを感じました。そとはあいかわらず、雨が降つてゐます。しばらくしてから、叔父さんと一しよに、家に歸りました。そして今日はほんとうに、伊勢佐木町へ行つてよかつたと思ひました。

幸ヶ谷校 高二 稻 石 一 男

六月二日は開港記念日だつた。先生から野澤屋に教育展覧會の催のお話をきき、僕もいこうと思つた。晝御飯を食べてしたくをし、野澤屋へ行くともう人で一つばいだつた。六階へ行くと寺子屋の事から始めて、明治時代の女學生の風俗などを人形にして

かざつてあつた。少し行くと今度は矢張り明治時代の教員の風俗が繪に書いてあつた。僕はなんの氣なしにひよつと上を向くと、脱帽と書いてある。僕は帽子を取つてそこに書いてある字を讀んで見た。今上天皇陛下の使用品。僕は、はつとして、そのガラスの中の品々に目をそ／＼いだ。其處には小さな僕等の使ふものと少しも違はないお机があつた。僕は何とも言へない有難い氣持が心の底から湧きあがつて知らず／＼頭が下つてきた。何といふ御質素なお机であらう。あゝこの御粗末なお机で一天萬乗の天皇陛下が、御勉強なさつたのか、僕と一緒に見てゐる人々も皆感にたへない面持であつた。側にはこれも亦御質素な木製の玩具があつた。私はしみ／＼と思つた。天皇陛下でさへこんなな御質素でいらせられる。僕達がどうしてぜいたくな事が出来ようか、僕は心の中でかたく盟つた。以後僕はこの有難い 天皇陛下のお旨を奉戴して、かたく質素儉約を守らうと。

吉田校 高二 齋 藤 末 子

前日先生に野澤屋に教育展覧會があると伺ひましたので、何となく見に參らなくてはすまないやうな氣がして、六月二日、之を見に參りました。場内の非常に混雑してゐた中を、順々と見て廻りました。ふと脱帽といふ立札が目につき、何であらうかと、氣をつけました。おそれおほくも、今上陛下及び御直宮様方の御幼時御使用遊ばされた御道具が陳列されてございました。何の飾氣もなく、至つて簡単な、あまりにも御質素な御品を御使用遊ばされて居られるのを拜見致しまして、唯々おそれおほいと感じられるばかりでございました。

私達が平常使つて居る物と少しも違はない此等の御品を尊い陛下や各宮様方が御使用なされて居られるとは、御質素な御生活がうかゞはれて、唯々感激致すのみでありました。

今の世には、華美浮薄に流れる人もあると、私達は聞いて居りますが、かしこくも、天皇陛下が御質素御儉約を遊ばされて居られるのに下々の私達臣民が贅澤を望むなどは、勿體ない事であると、深く感ぜずには居られませんでした。

私達は此の大御心に對する感謝の氣持をもつて御奉公しなくてはならないのでございます。

私は其の日おそれ多い事ではございますが、かうした御聖徳仰ぎ奉り質素儉約を守り、少しでも困つて居る人々を助け、又滿洲の野に匪賊と戦つて居られる兵隊さん達をお慰めしたりするのが、大御心に報い奉る所以であると信じ、これを實行しませうと堅く強く心に誓ひました。

富士見丘高女 四ノ二 飯 山 静 枝

しと／＼と静かな五月雨が音も無く樹々の葉に降り注いで居る。父と私と妹の三人を乗せた自動車は今アスファルトの舗装道路を眞しぐらに野澤へと急ぐ。窓外のしめやかな空氣は私の心を落着かせてくれる。絹絲の様な小雨に四邊はぼうつと煙つて緑色の街路樹が一際茂みを見せて大地にどつかりと平和を物語るものゝ様に思はれた。早くも車を降りて私達三人はエレベーターに乗つた。

エレベーターは數秒の後ガチャンと六階の入口に止つた。

昭和十一年五月三十日、此の日は神奈川縣教育會創立五十周年記念の催しとして野澤屋六階にて教育

回顧展覧會開會中であつた。父も二、三の御用を兼ねて御出演中であつたので、私達姉妹は土曜を幸ひ早々學校を出かけたのだつた。

エレベーターから降り立つた時、そして正面に女學生姿の變遷を始めて見た時、嬉しさ、美しさ、珍しさに、わけ無くはしやいで、右左と順々に見て廻つた。やがて脱帽の二字はびつたりと私の心を射とめた。父も無言で靜かに帽子を右手に取られた。

畏くも、聖上陛下御幼少時代の御使用の御机並に御椅子を拜觀する、勿體無い御場所なのであつた。私は黙つたまゝ何時までも拜觀して居た。私は急に目頭が熱くなつて來た。それは、天皇陛下が御勉強遊ばす爲に御使用になつたと言ふ御机、並に御椅子なのである。本當にまあ何と言ふ御質素なものなのであらう。本當に之が、天皇陛下の御使用遊ばされた御机なのであらうか。そして又御椅子なのであらうか。幾度も／＼、心の中でつぶやいてぢつと見てみるのでした。そうして居る中に私が今まで御想像申し上げてゐた御机や御椅子等には似ても似つかぬ御粗末な物でしかなかつたのに、今更ながら驚くと同時に／＼、私達の日常が我がまゝで贅澤な事を思ひ浮べて、申し譯無い様な、勿體無い様な感じうたれて何とも表はせない神々しさを覺えて、しばし釘付けにされた様に、たゞ何時までも／＼ぢいつとして居るのであつた。ふと我に歸ると父が

「實に何とも御粗末なものだなあ！」半ば獨り言の様におつしやつた。私達三人は一禮して次の方へ廻つた。それからあの御机と御椅子がまゝ／＼と目の前に浮ぶのであつた。其の後我等一億の民草の上に靴をおさとし遊ばされる御慈愛の御潤ひと御恵みに一天萬乗の大君を限り無く崇高く辱なく思ひ奉

ると共に、日常の生活にも「贅澤するなかれ、ほらあの御机御椅子」を事毎に思ひ出す私である。

磯子校 尋五 山 野 井 文 子

私は、六月二日の日曜日に教育展覧會を野澤屋へ見に行きました。日曜でしたから入口からもう人が大ぜい居ました。私達はやつと、おされ／＼と會場へつきました。中には、しやしんや、人形で色んな時代のがならんで居りました。又明治時代、大正時代の小學生はみんな着物をきて、帯をして、まいかけをかけて、げたをはいて居ました。讀本も明治二十頃の「ハナ、ハト、トリ、キリ、カンナ」といふやうな讀本が並んで居ました。お母さんは「此の本を一年生の時に讀んだのですよ」とおつしやいました。お母さんは明治三十年頃におひ松小學校へ行きました。其の少し前はまだ寺子屋といつて、お寺などでおしうじをして、小學校なんていふものはなかつた、とおつしやいました。又、天皇陛下のおつかひになつた、お机や宮様方のおつかひになつたおもちやなども、私達と少しもちがはない。それは／＼と質素な物でございました。又めの見えない人の學校のしやしんがあつて、めのみえない人があんだ、お洋服が、かざつて有りました。まだまだい／＼出て居ましたけれど、人が大ぜいでよく見られませんでした。ほんとうに昭和にうまれた私たちはほんとうにしあはせだと思ひました。





代 時 年 壯

回顧五十年

伊 東 覺 念

本年は本縣教育會創設五十年に當るので、五月三十一日に記念式を挙げ五十年教育回顧展覽會、教育功勞者表彰式等を行ふことゝなつたから、余にも回顧録を書けとの事であるが、只多年教育の事に携はつて居た丈の事で、回顧するも何等参考に資すべき程のことが記憶に存せぬので記載も出来ません。のみならず、不幸にして、三歳の時に母を失ひ、四歳より寺院に育ちましたので所謂寺子屋教育も碌々受けません。ですから學制頒布當時の事も克く存じませんが、併し明治六年頃設立されました高座郡當麻村當麻學校の近くに居つたので、其の當時の校長荻野重次郎（本縣師範出身荻野素助氏の御親父）先生に就き漢籍を學びましたから、斷えず學校には出入して居りましたので、多少は見聞して存じて居る事もありますから、學則又は内容上に關する事は止めにして、只表面上に行はれた實際の事だけを僅かばかり記載して御許しを願ひます。

明治五年に學制が頒布され、學校が創立せられたのは大體明治六年で、多く寺、又は神官等の家屋を利用しました。入學兒童の年齢は滿六年より十四年迄ですが、開校の始めは六歳から十四五歳迄の者を一校に入學させました（無論寺子屋から移つた

者が多數です。五十音から教授して、之を段々に選抜進級させたのですが、當時は女兒は極めて少く、男兒も髪を結び前垂掛けで袴などを着けて居るものは更にありませんでした。

最初は上等八級四年下等八級四年でありましたが後には初等六級三年中等六級三年高等四級二年、合せて八ヶ年で、一年に春秋二回の試験がありました。年に二級づゝ進級しました。故に寺子屋から移つて來た者は年に三四級も進みました。試験は明治六年には行はないで同七年から師範學校と縣廳から出張して行はれました。次には縣廳から出張して地方に試験委員又は管掌教員と言ふものを設けて行はれ、其の次には學校組合を設けて甲校の試験は乙校より、乙校の試験は甲校よりと互に試験を行ひました。其の後は只今の様な考査となつたのであります。

試験には大試験、小試験、比較試験等の種類がありました。小試験は各學校で適宜に行ひ、大試験は進級の試験で、一學科終る毎に採點して不合格の者は落第と云つてどしどし試験場から呼び出して除外されてしまひました。實に現今の試験地獄の叫びより、もつと／＼ひどく、尋常一學年からですから

眞に可憐で親は子をしかり、子は泣きながら手を引かれて行く有様を想ひ起すと、今尚涙なくしては居られません。皆よく黙認して居たものだと思ひます。

比較試験は三四郡位聯合して、一學級から上級生を一、二人宛選抜して受験させるので、之には知事が臨場せらまして、なか／＼大仕掛けのものでした。即ち當該地方の學校長から管掌の教員を選んで試験を施行し、其成績は點數を以て表はし、各學校毎に比較調査して、其優劣を表示して其學校の價値を判別されるのでありますから、學校長としてはなかなか手ひどい責任上の試験場でありました。

師範學校は横濱、羽鳥、八王子、日野の四校でありましたが、二ヶ年ばかりで横濱に併合せられて一校になりました。尙何時の頃でしたか小田原にもあつたことを覚えて居ります。

最初の教員は手習師匠即ち手子屋の師匠が直に教師となつたのが多數でしたが、其の後試験を受けて資格をとり、追々と師範學校に入つて資格を得て教員となる様になりました。

學校の教科目は學制頒布當初は讀書、習字、算術の三科目で、算術は筆算のみでありましたが、明治十一年頃から珠算を加へ、次に地理、歴史を加へ、次に博物化學を加へる様になつたと記憶して居ります。最初は修身の學科はありませんでした。明治十一年頃から文部省は漸く修身の學科に重きを置く様になりました。明治十二年の改正教育令第三條に、

「但己むを得ざる場合に於ては修身、讀書、習字、算術、地理、歴史の中心地理、歴史を減ずることを得」

右但書を加へるに至りまして修身が教科目の第一位に置くに至りました。

翌十四年神奈川縣小學校教則第一章第一條

「小學校を分て初等、中等、高等の三等とす」となりました。明治七八年頃縣廳から新聞紙を各小學校に送附せられて、紙上に記載された内外の事項を修身の時間に説示する様にとのことでありました。現代の學校で新聞中の適當な記事を教科の補助教材にでも活用する試みでもあり、非常に新しい試みの様に思はれますが、實は昔疾くに行はれたのであります。

教科書は五十音圖、單語、單句から讀本となり、讀本の始めには「人の住む所を地球と云ふ。亞細亞人種、歐羅巴人種、亞米利加人種」等の文句があり又「神は天地の主宰にして人は萬物の靈なり」等の文がありまして、五十音等が濟むと之をたしか一年より教授した様に覺えて居ます。高等になりまして小學、國史略、十八史略等のむづかしい本を教授しました。習字の手本は教師が大體書いてやりました。

教員の講習は明治九年頃羽鳥師範から小笠原東陽先生が高座郡の北部、今の新磁村磯部の能得寺と云ふ寺に大小區全體の教員を集めて、五十音、單語、單句、讀本等を講習されました。中には聖堂出身の

學者の方もありましたが、算用数字は始めてで、只一人東京師範の半途退學の村尾といふ人の外更に知つて居る者はなかつたと云ふことです。又讀本中の灌木、喬木等の別も知るものはないので、今其の寺にある樞の大木を指して之は灌木か、喬木かと問はれても、誰一人答へるものはなかつたとのことでした。尙此時體操の講習もありましたが、一人立ちますと、其の後へ後へと列んで號令に隨つて手を左右に舉げ足を交互に前へ出し首を左右に振るのみでありました。

教授の方法には中々珍らしいのがありました。單語や單句を教へるにも、讀本を教へるにも句切りに鞭を打振り、又は黒板やテール等をたゝきながら拍子を取つて教授するのもありました。

又足柄縣今の愛甲郡の中津村邊の地方の代官で聖堂出身の佐藤一齊先生の門弟で見識のある内野文藏と云ふ先生がありました。此先生は太鼓を打つて拍子を取りながら教授されたことと云ふことです。其當時は東、西、南、北等の漢字を教へるのに「ヒガシ、トウ」「ニシ、サイ」「ミナミ、ナン」「キタ、ホク」と音と訓を同時に教へたのであります。之を教へるのに先生が「ヒガシ、トウ」と唱へると兒童も「ヒガシ、トウ」と鸚鵡返へしに唱へて覺へさせるのですが内野先生は「ヒガシ、トウ」「ドンドンドン」と太鼓を打鳴らしてうまく拍子を取りながら教へるので、まるで日蓮宗の御題目を唱へる様な奇抜な教授方法でした。

作文（今の綴り方）などは記事文で、漢字直譯體であります。先づ一つの模範文とも云ふ様な標準となるべきものを教授し置き、此の型に倣つて作らせるのであります。例へば猫の題ならば、「猫は人家に

飼はるゝ獸にして能く鼠を捕ふ。紙薦と云ふ題ならば、紙薦は竹と紙にて作り糸を付け人のあぐるものなり」と云ふ様な類でありましたので、或學校の先生が教師と云ふ題を與へて作らせたら、「教師は骨と皮にて作り人を教ふる道具なり」と作りましたので實に穿つた名文だとして大いに喧傳されました。

併し當時の教師は父兄からは、神の様に尊はれ、財産家などでは自分の家に居て貰ふことを名譽の様に思はれて居るので、其の様に生活は困難ではありませんでした。

尙夫れは實に自由なもので、何時休みにしても旅行しても平氣で、明日から盆であるから三日間休みだとか、何處の村に芝居があるから休みだとか、校長の獨斷專行で何處からも指揮を受けるでもなく、認可を願ふわけでもなく、實に教師の獨尊時代と云ふ様な有様でした。

兒童の訓練などに就ても、其の標準用語は「此の野郎、此のアマ」等の一言が、萬事の訓練語であつて實に簡單で十分に用が足りたのです。其の次は直ちに拳固、直立、留置等でした。直立には茶碗に水を入れて持たせるか、又燒香に火を灯ぼして燈し消ゆる迄持たせるとか、又大算盤などを捧げ持たせる等で、罰の輕重に依つて酌量すると云ふ有様でした。

七月の歴史

女師附屬 關 戸 正 美

- 一 元寇記念日
明治天皇御製に
世の中にことあるときぞしられける
神のまもりのおろかならぬは
- 二 第一回衆議院議員選挙を執行す、因に神奈川県より島田三郎外六名が選出さる。
- 三 新田義貞延元三年閏七月二日越前藤島に戦死す。而して此の地に藤島神社ある。
- 四 一七七六年七月四日アメリカ合衆國獨立す。
- 五 勤王家浦生君平文化十年七月五日四十七歳にて歿す。山陵志の著者。
- 六 天平寶字五年始めて孟蘭盆會を行ふ。
- 七 明治十七年七月七日華族に公・侯・伯・子・男の五爵を設け、これを授け。
- 八 萬延元年七月七日孝明天皇の第二皇子祐宮様が皇太子にたゞせらる。即ち明治天皇であります。
- 九 豊臣秀吉天正十三年七月十一日正親町天皇の御代に於て關白となる。
- 十 横濱開港に有力なる意見を提議されました佐久間象山こと、京都に於て暗殺さる、時に年五十四歳元治元年七月十一日のこと。
- 十一 淡川神社例祭
- 十二 〇紀元一八五二年建久三年七月十一日頼朝征夷大將軍となる。
- 十三 〇公文に清國名稱を廢止し、支那國と改む、大正二年七月十三日。
- 十四 〇明治四年七月十四日廢藩置縣の御詔勅によつて名高く、全國二七六藩は廢止されて三府七十二縣が置かる。
- 十五 〇相模久里ヶ濱に於てペリー上陸記念碑の除幕式を行ひ、首相桂太郎以下各大臣之に臨席す。
- 十六 〇北條氏綱——上杉朝定を擊破し、武藏河越城をぬく、天文七年七月十五日なり。
- 十七 〇景行天皇の四十年、東方の夷が叛いたので日本武尊東征の途につかる。
- 十八 〇岡山應舉は寛政七年七月十七日六十六歳にて歿す。
- 十九 〇慶應四年七月十七日江戸を東京と改む。
- 二十 〇山岡鐵太郎こと明治二十一年七月十九日歿す。
- 二十一 〇蛤御門の戦、慶應元年七月十九日のこと。
- 二十二 〇明治十六年七月十九日岩倉具視危篤の報により、長くも天皇には病中第二回の見舞を遊されて居るけれども具視に命なく、永眠となる。即ち七月二十日のこと。
- 二十三 〇あめ地のそき立つきはみ照らすべきこの日の本のものふやたれ……(岩倉具視)
- 二十四 〇秀吉第二回の朝鮮征伐の最後の激戦地として有名な泗川に勇名を馳せた島津義弘歿す。元和五年七月二十一日のこと。
- 二十五 〇幕末勤王家平野國臣歿す。元治元年七月二十二日のこと。
- 二十六 〇報徳テ——天明七年七月二十三日相模國足柄上郡栢山村に生る。現在の櫻井村東栢山のこと。
- 二十七 〇護良親王元弘二年七月二十三日歿す。
- 二十八 〇日露戦争當時の滿洲軍の總參謀長であつた兒玉源太郎大將歿す。明治三十九年七月二十四日のこと。因に江の島には氏を祀る兒玉神社がある。
- 二十九 〇日清戦争の重大原因をなした豊島沖の海戦が二十七年七月二十五日のこと。
- 三十 〇文明十八年七月二十六日、太田道灌は無理解な主人定正の爲に浴室にて殺さる。
- 三十一 〇備前岡山城主池田光政の臣熊澤蕃山元祿四年七月二十七日に歿す。
- 三十二 〇武藤信義昭和八年七月二十七日歿す。
- 三十三 〇老いぬれど國にむくゆる眞心は若き櫻の花に譲らじ……(武藤信義)
- 三十四 〇獨逸の鐵血宰相ビスマルク一八九八年薨す、國家はたゞ鐵である。血であると言言されてゐた。
- 三十五 〇小松内府とか燈籠大臣などと呼ばれた氣立のやさしかつた平重盛こと後治承三年七月二十九日歿せらる。
- 三十六 〇明治二十七年七月二十九日は修身書に有名な木口小平の戦死された日であります。因に氏は岡山縣川上郡成明村の人にして、戦は朝鮮成歡の戦なり。
- 三十七 〇明治天皇崩御 明治四十五年七月三十日午前零時十二分御年六十一歳に遊さる。
- 三十八 〇春あさみ野中の清水水居て底の心を吸む人ぞなきとは井伊大老の胸中を知るに足るものだが、彼を知り、彼を慰めた人に大久保一翁がある、而して氏は明治二十一年七月三十一日に歿して居る。(記二五九六・六一日)



川 激賞の裡に

終始したる

理科指導研究会 渡田尋常小學校

本年度市指定教科指導研究会のトップを切つて理科の指導研究会は、五月二十五日指導員として、川崎高等女學校の唐戸末藏先生と川崎中學校の山崎孝先生を迎へて、渡田尋常小學校に於て開催された。

市より齋藤視學出席され、市内各小學校長及理科研究部員の來會するもの五十餘名の多數に及び盛會であつたが、來會者一同は、同校の極めて眞面目なる研究と、授業の整備と巧妙なる指導の實際に就て稱へると共に、明日への理科教育の指標を與へられて、午後七時散會したが、最近稀に見る充實した研究會であつた。

當日の授業、批評指導會の概要は次の通りである。

研究授業

- 四男松 かへる 池上 訓導
- 四男竹 はなしようぶ 鈴木 訓導
- 四女松 たんぼ、 岩本 訓導
- 四女竹 つまじ 佐藤 訓導
- 五男松 竹 加藤 訓導
- 五男竹 ねずみ 朝比奈 訓導
- 五女松 燕 諸星 訓導
- 五女竹 雀 筒井 訓導

六男松 苛性ソーダ 霜島 訓導

六男梅 アルコール 野谷 訓導

六女竹 炭酸ソーダ 小泉 訓導

三男松 おたまじやくし 句坂 訓導

批評指導會は午後三時より開會、齋藤視學の開會の辭、竹内校長の挨拶に次いで、理科主任朝比奈訓導の「本校理科教育の概要」に就て、造詣深き研究發表のあつた後、句坂訓導の教授者を代表しての自評あり、終つて左記五氏の方面別の讃稱に終始したる批評があつて、指導員の講評に入つた。

中原校關口訓導 (御幸中原方面)

川崎校谷口訓導 (舊川崎方面)

旭町校岩本訓導 (大船旭町、田島方面)

飯島訓導、中村訓導

唐戸指導員の講評概要 (博物)

- 一、授業の準備がよく整つてをり、又指導態度、指導の方法等何れも申分がない。
 - 二、習性から形態に入つて指導する方法はよい。
 - 三、兒童が自發的に研究せんとする態度がよく出来てゐる。
 - 四、自然に恵まれてゐる本校は、なるべく郊外觀察をなさしめ、理科趣味の涵養に留意せしめられたい。
 - 五、低學年兒童に注意深い觀察力を養ふ上から自然科の設置はよい。
 - 六、全般的に觀て立派な研究授業であつた。
- 山崎指導員の講評概要 (化學)
- 一、教科書以外の教材を採取することは可であるが、其の爲に教科書を閉却するやうなことは慎むべきである。
 - 二、實驗の結果を重んずると共に、其の過程

をよりよく重んじたい。

終りに指導員は實驗具によつて、薬物瓶の持方、實驗管の振り方、藥品點火の仕方に就て懇切に指導された。

齋藤視學の講評

- 一、設備は充分でないけれども、眞面目で有益なる研究會であつたことは、過去七ヶ年を通じて本研究會が第一であつたやうに思ふ批評も適切である。
- 二、市内小學校に教材園を作ること望ましい。
- 三、理科方面の設備を整へる爲の豫算を各校にて考慮されんことを希望する。(Y生)

市主催の

手工科講習會

左記要項により、川崎高等小學校を會場として講習會を開催した。受講者十七名。

一、日時

- 五月二十六日(火) 自午後二時至同五時
- 五月二十八日(木) 同
- 五月三十日(土) 自午後一時至同四時
- 六月一日(日) 自午後二時至同五時
- 六月三日(水) 同
- 六月五日(金) 同

- 二、指導者
- 講師 高野雪 治氏
- 助手 井上邦 雄氏
- 同 本條 盛氏

橘 橘樹郡教育會總會 十六日盛會裡に 舉行

五月十六日(土) 本郡教育會定期總會を本郡稻田第一小學校に於て舉行。參會者無慮百五十 縣よりは萩原視學御來會あり、橘樹郡町村長、稻田第一小學校學習委員、其他來賓多數、式次第左記の通り。

- 一、開會ノ辭
- 二、國歌合唱
- 三、勸語捧讀
- 四、會計及會務報告
- 五、關東聯合教育會代議員報告
- 六、教育功勞者表彰
- 七、會長告辭
- 八、知事閣下告辭
- 九、被表彰者答辭
- 一〇、來賓祝辭
- 一一、閉會ノ辭
- 休 憩 (畫食) ——
- 表彰者次の通り。
- 本郡内勤續十五ヶ年
- 日吉小學校長 松本 鎌吉
- 高津小學校訓導 廣田 春生
- 同 十ヶ年
- 本郡教育會長 都倉 義知
- 教育會評議員 杉田 政次郎
- 高津小學校訓導 棚倉 コトエ
- 同 生田小學校訓導 加藤 寅吉
- 同 關谷 重臣
- 同 秋田 操子

午後より東京日活撮影所に至り所員の案内に

の告別式に弔詞を送る。

九月四日 武相教育本部編輯委員會を開く。

九月十日 幹事會を女子師範學校内に開く。

九月十二日 石井會長御母堂本月十日御逝去。本日青山齋場に於て告別式執行に付本會より花輪を靈前に供し會員を代表して役員參列す。

十月十七日 神奈川縣師範學校六十周年記念式に石井會長臨席。

同日 日 神奈川縣教化團體聯合會發會式を縣廳内議事堂に於て舉行、本會役員參列。

十月三十日 關東聯合教育會代議員會を開き、本會提出の議案につき審議す、赤木愛太郎、齋藤篤太郎、龜ヶ谷春吉三氏出席。

十一月五日 五十周年記念事業委員會を開き、經費の件、被表彰者證書標準の件、記念號發行の件、共濟部新設の件につき審議す。佐藤、齋田、秋山(岩)、金子、秋山(兵)、山口、守永、五十嵐、石川、齋藤、霜島、高城各委員出席。

同日 日 編輯委員會を開き懸賞論文審査員決定の件選舉肅正就に關する件等につき審議す。

十一月七日 本日より三日間熊谷市に於て關東聯合教育會第三十一回總會開催。本會より代議員として赤木愛太郎、齋藤篤太郎、龜ヶ谷春吉、高城研の四氏出席す。

十一月八日 第三十一回關東聯合教育會に於て教育功勞者として横濱女子商業學校教諭板谷里次郎氏表彰せらる。

十一月廿六日 編輯委員會を女子師範學校内に開く。

十一月廿八日 福利事業委員會を開き共濟部組織につき審議す。赤木、坂田、古平、荒井、三芳、齋藤、守屋、山崎、高城各委員出席。

十二月四日 地方編輯委員會を女子師範學校内に開く、五十周年記念誌、選舉肅正就、新年號編輯の件につき協議す、全員出席す。

十二月六日 小學校用神奈川縣郷土讀本及神奈川縣地圖

編輯委員として神奈川縣師範學校主事淺井誠一、教諭安達茂夫、同吉田太郎、訓導熊坂菊治、同梅澤國松、神奈川縣女子師範學校主事會田慶司、教諭加藤トキヲ、同東條繁樹、訓導三浦郷親、同關戸小一の諸氏を委嘱す。

同日 日 磯子小學校訓導松井敏雄氏を地方編輯委員に委嘱す。

十二月十日 本會共濟部新設に關し五十周年記念事業委員、福利事業委員、互助會役員の懇談會を開く。委員全部出席す。互助會役員として出席せられしは左の諸氏なり。

田邊郷左衛門、伊東覺念、鈴木保太郎、井波勝雄、森五太郎、小泉健作、三芳三郎、土方義道、吉永貫一、森久保敬次、諸星一三、中島景雄、平本善因。

十二月十六日 帝國教育會常任委員會を帝國教育會内に於て開催高城氏出席す。

同日 日 教育塔建設實行委員會を帝國教育會内に開く。櫻井主事出席す。

十二月十七日 選舉肅正就座談會を開く。石井會長の外大森齋田、佐藤、結城、淺井、金子、宮川、齋藤、伊谷、曾我、安西、永井、池上、大矢の諸氏出席。

十二月二十日 前神奈川縣教育時報地方編輯委員下村、東條、小原、遠藤、藤原、長田、龜野、辻村の各氏に記念品を贈る。

十二月廿三日 足柄上郡岡本小學校訓導石井安次氏を地方編輯委員に委嘱す。

同日 日 本會創立五十周年記念誌編輯主任として山田豊次郎氏を委嘱す。

同日 日 本會發行商業簿記教科書編輯委員大串達、宮本英男、石井利男、岩橋莊一郎、富岡富雄、藤井孝輔の六氏に記念品を贈る。

同日 日 小學校教員養成學科講習會講師として神奈川縣師範學校教諭佐藤秀三郎、門田當良、川口雄男、神奈川縣女子師範學校教諭末木美衛、杉山甚一の諸氏

を委嘱す。

十二月廿四日 小學校教員養成學科講習會を兩師範學校に開く。専正講習科目は國語、音楽、小正講習科目は體操、音楽。

十二月廿六日 神奈川縣郷土讀本編輯委員會を女子師範學校内に開く。全委員出席。

十二月廿七日 幹事會を開き互助會、教育會合併に關する件外數件につき審議す。石井會長、大森、佐藤兩副會長の外結城、齋田、秋山、坂田、赤木、五十嵐、金子齋藤の各幹事出席す。

一月八日 小學校教員養成學科講習會終了す。修了者小正六十二名、専正四十二名。

一月十日 本會評議員上田善吉、立山松次兩氏は轉任の爲辭任す。

一月十一日 川崎市教育會第十一回總會に金子幹事會長代理として出席す。

一月十四日 警友病院、若草會病院利用方に關し各學校に通知す。

一月十五日 川崎市學事課長風卷義雄、平塚市學務課長富樫吉郎兩氏を本會評議員に委嘱す。

一月十七日 女子師範學校に於て五十周年史編輯に關し打合せを開く。結城、金子、宮川、山田、櫻井の五氏出席。

一月廿三日 流感豫防注意書を各校に配布す。

一月廿七日 幹事會を開き五十周年記念事業、紀元二千六百年記念事業、夏季學習帳編纂方針其他其他實施事項數件に付審議す。石井會長、大森、佐藤兩副會長、齋田、結城、秋山、赤木、金子、齋藤の各幹事出席す。

一月廿八日 女子師範學校に於て夏季學習帳市部版編輯方針につき打合せを行ふ。結城會長、金子幸ヶ谷校長、西川石川校長、佐久間豊島校長、石川御幸校長、沼田平塚高等學校長(代理高梨)出席す。

一月三十日 横濱市青木小學校校長砂川孝平氏告別式執行につき會長代理として櫻井主事參列弔詞を送る。

二月三日 編輯委員會を女子師範に開き五十年史及二月號編輯につき議す。結城、坂田、金子、宮川、田代淺井、山田の各委員及櫻井、武の兩氏出席す。

二月四日 津久井郡川尻小學校訓導井上トメ氏逝去につき弔電を送る。

二月五日 五十周年記念展覽會準備打合せを工業學校に開く。秋山、金子、齋藤(元)、霜島、三芳、石川、森久保の各校長及櫻井、武兩氏出席す。

二月七日 五十周年記念展覽會準備打合せを専修商業校に開く。森、石川、齋藤(元)、齋藤(篤)、金子、霜島の各校長及櫻井、武の兩氏出席す。

二月十日 關東聯合教育會常任委員會を帝國教育會内に開く。櫻井主事出席す。

二月十八日 本縣教育五十周年回顧展覽會準備委員として秋山工業學校長外二十四氏に委嘱す。

同日 日 表彰準備委員として齋田視學官外七氏を委嘱す。

同日 日 明治天皇聖蹟調査委員として赤木湘南中學校長外八氏に委嘱す。

同日 日 本縣教育五十年史編輯委員として結城女子師範學校長外六氏を委嘱す。

二月二十日 夏季學習帳都市用編輯委員として會田女子師範學校主事外二十五氏に委嘱す。

二月廿六日 夏季學習帳都市用調査委員會を鎌倉師範附屬小學校に開く。淺井、小泉、野路、碓井、加渡田、池上、土方、北村、横山、山本、秦野の各委員出席。此の日大に雪降る。

三月五日 懸賞論文審査會を開く。結城、坂田、船越淺井の各審査委員出席す。

同日 日 武相教育編輯委員會を開く、結城、淺井の兩委員出席す。

三月七日 夏季學習帳都市用編輯委員會を女子師範附屬に開く。會田、西川、神崎、清水、古田、小坂、梶谷、石川、龜野、比企、高梨、花田外十二名の各委員

出席す。

同日 日 郷土讀本編輯委員會を鎌倉師範學校に開く三月廿四日 縣廳内に於て理事會を開き左の件に付議す

一、昭和十一年度事業概要

二、昭和十一年度豫算

三、昭和九年度決算

石井會長、大森、佐藤兩副會長の外齋田、結城、秋山赤木、五十嵐、永野、金子、森、加渡田、三芳、諸星小泉、宮川、齋藤、石川、佐々木、片岡、森久保、霜島の各理事出席す。

四月一日 小學校教員養成學科講習會を鎌倉師範に開き體操科を講習す。期間三日間。

四月二日 評議員會を縣廳内に開き左の件につき議す

一、昭和十一年度事業概要

二、昭和十一年度豫算

三、五十周年記念事業費豫算

四、昭和九年度決算

石井會長、大森副會長の外金子、高梨、白井、森、秋山(兵)、小泉、坂田、古平、原、松本、大矢、竹松、佐藤、石川、福田、齋藤、長澤、間宮、高田、秋山、清水、守永、山本、林、北村、石井、宮川、白井、高城の各評議員出席。

昭和十一年度事業概要

一、創立五十周年記念事業

1、記念式舉行

來る五月三十一日横濱市立専修商業學校、横濱尋常小學校にて舉行の豫定

2、教育功勞者の表彰

- (イ) 二十五年以上教育に従事し本縣教育に功勞ある者
- (ロ) 本會現職役員にして特に功勞ある者
- (ハ) 學校醫學務委員にして三十年以上勤続し功勞ある者
- (ニ) 其他特に教育上に貢獻し功勞ある者

3、神奈川縣教育五十年史編纂

來る五月三十日より六月三日まで五日間野澤屋に開催豫定。從來の展覽會とは稍々其の趣向を變へ實物、繪畫模型、人形、寫眞等を繪卷物、パノラマ式に陳列して全く五十年の昔を偲び其の後に於ける本縣教育の躍進の跡を顧み以て將來の發展の資とせんとするに在り、出陳物の大要は

- (イ) 本縣教育光榮の數々
復興祭御臨幸の御模様
宮殿下御成の寫眞類
- (ロ) 寺子屋より小學校へ移りし當時の寫眞、繪畫、模型類
- (ハ) 公私立中等學校、初等學校の普及及發展を見るに足るべき年表、繪畫、模型類
- (ニ) 學校建築様式の變遷を見るに足る繪畫、模型、寫眞類
- (ホ) 兒童、生徒、教師の服裝の變遷を見るに足るべき繪畫、寫眞、人形類
- (ヘ) 學用品の變遷を見るに足るべき實物、繪畫、寫眞類
- (ト) 兒童、生徒の運動遊戲等の變遷を見るに足るべき繪畫、寫眞、人形類
- (チ) 兒童、生徒の間に流行したる唱歌、軍歌類を時代別に蓄音器のレコードに吹き込み會場にて演奏
- (リ) 教科書の變遷を見るに足る實物
- (ヌ) 教授上の變遷を見るに足る繪畫又は寫眞の類
- (ル) 教育行政上の變遷を知るに足る訓令、法規、内規等
……免許狀、辭令、表彰狀の如き實物
- (ヲ) 青年教育社會教育上の變遷を見るに足る圖表、模型寫眞の類
- (ワ) 其の他五十年の變遷を見るに足るべきもの
仰出され書、歴代知事揮毫の額、獎勵旗、中野知事時代の楠樹、優勝旗。作業教育の實際、關東聯合教育會の實況等の實物、寫眞、模型等

5、明治天皇聖蹟調査

計 一〇、五五〇一〇、二〇〇 三五〇
本豫算各項實施に當り不足を生じたる時は會長に於て豫備費又は他の項より適宜流用し他の款より流用する場合は理事會の決議を経るものとす

臨時部

創立五十周年記念事業

Table with columns for 收入之部 (Income) and 支出之部 (Expenditure). Includes items like 積立金より繰入金 (Income from reserve fund) and 記念式典費 (Fees for commemorative ceremonies).

神奈川縣教育會昭和九年度歲入歲出決算

Table for 神奈川縣教育會昭和九年度歲入歲出決算. Columns include 歲入 (Income) and 歲出 (Expenditure) with sub-categories like 歳入總額 (Total income) and 歳出總額 (Total expenditure).

Table with columns for 補助金 (Subsidy) and 歳出之部 (Expenditure). Lists various items and their amounts.

Table with columns for 科 (Category) and 歳出之部 (Expenditure). Lists categories like 會議費 (Meeting fees) and 役員會費 (Staff fees).

Table with columns for 豫備費 (Reserve) and 歳出之部 (Expenditure). Lists items like 豫備費 (Reserve) and 豫備費ヨリ流用 (Used from reserve).

剩餘金處分案

Table for 剩餘金處分案. Columns include 剩餘金總額 (Total surplus), 次年度繰越金 (Carry-over to next year), and 基金繰入額 (Fund contribution).

基金現在高

Table for 基金現在高. Lists various fund categories and their current amounts, such as 前年度ヨリ繰越 (Carry-over from previous year) and 本年分利息公債額 (Interest on bonds for this year).

神奈川縣教員共濟會

診療手當支給調 (三、四、五月分)

Table for 診療手當支給調. Lists names of members and their respective amounts for medical allowances.

會員弔慰金支給調 (四、五月分)

Table for 會員弔慰金支給調. Lists names of members and their respective amounts for condolence money.

家族弔慰金支給調 (五月分)

Table for 家族弔慰金支給調. Lists names of family members and their respective amounts for condolence money.

災害見舞金支給調 (五、六月分)

Table for 災害見舞金支給調. Lists names of members and their respective amounts for disaster condolence money.



本會後援夏期研究發表講習會

今回本會後援のもとに、縣下稀れに見る大規模なる研究發表講習會が新教育協會及び横濱市間門尋常小學校共同主催にて、来る八月一日より同六日まで六日間、風景絶佳にして海あり森ある夏尚暑さを知らずといふ、間門小學校の講堂に於て開講されることになりました。

同會の研究發表講習は回を重ねる毎に隆盛に赴き、今年は特に第一講座として健康教育の理論と實際といふ標題の下に、吉田章信博士始め斯道の權威者が理論に實際に、縦横の御研究を發表される由。

又第二講座としてカリキュラムの改造に就いてといふ標題の下に、長田博士外十名の極めて眞摯なる研究と體驗の結晶を充滿したる内容を提げて廣く同學の士の前に披瀝するやう構案されてゐるのです。

次に講演題目と講師とを列挙すれば、

「第一講座の部」

- 日本兒童體位論 醫學博士 吉田章信
- 健康教育論 醫學博士 野津謙
- 新教育と體育 東京帝大教授 入澤宗壽
- 學校衛生に於ける新しい試み 文部省衛生官 大西永次郎
- 精神衛生の教育 醫學博士 村松常雄
- 臨海林間學校の研究 醫學博士 庄司重之
- 横濱間門小學校の實際 醫學博士 宮田直次郎
- 群馬縣福島校の實際 醫學博士 黒澤幸藏
- 學校體育の精神 醫學博士 岩原拓
- 昭和十一年改正體操要旨の實踐に就いて 文部省囑託改正委員 森秀
- 兒童生徒の榮養増進 醫學博士 原徹一

「第二講座」

- 日本のカリキュラム改造 東京文理科教授 田中寛一
- 教育改造と教科改造 東京文理科教授 長田新
- 生活教育と新カリキュラム 慶大教授 小林澄兄
- 創造教育と新カリキュラム 早稲田大學教授 稻毛金七
- カリキュラムの理論と實踐 東京中央放送局長 木下竹次
- エキストラの理論と實踐 東京中央放送局長 小尾範治
- 浦島小學校とカリキュラム 浦島小學校校長 上沼久之丞
- 富士見小學校カリキュラム 浦島小學校校長 小坂太司
- 高等小學校のカリキュラム 川崎高等小學校校長 津田信雄
- 現行教科を活かす方法 東京高等小學校校長 山崎博
- 現行教科を活かす方法 附屬小主事 佐々木秀一

要するに本研究講習會を開催する所似のものは第一講座に於ては現代社會乃至教育界の人士が愛兒の健康増進のために體操とか、衛生とかいふ舊態から脱して健康教育の全般的開拓を行ふとするものであります。

尚第二講座に於ては教育革新の叫ばれる今日將來必ず實行せらるべき國民教育のカリキュラム（教科課程）を如何に改造すべきかの大問題に就いての研究にして、之れが達成に就いては全國的に教育者の協働に待つこと勿論なれど協會はその先驅者となつて、斯界の權威者に囑して發表願ふ次第であります。

兩講座共誠に時宜に適したるものにして、その内容の豊富たる點、かくも多數の學者名士を集めたるものは從來容易になく、依つて本會を始め横濱市教育會、市小學校教員會、神奈川縣友松會等、率先して後援することになつてゐますので何卒多數お申込み下さい。

尚科外講演には特に安達謙藏氏にお願い保健國策に關する講演を願ふことになつて居ります。その他見學として市内の名所、工場の見學、横濱港の見學等極めて豊富なる講習につき本誌を通じて廣く御紹介申し上げます。

申込みは直接間門小學校へ、締切は七月十五日と御了承の事。何れ主催者より申込書其の他必要なる書類は發送さるゝはづである。

各地講習會紹介

京都帝國大學 第七回講習會

期間 自八月一日至同八月八日（八日間）
場所 同大學内
内容 法文經農工理醫（十九科）科外
手續 一科目聽講料二圓、資格に制限なし。所定申込用紙により七月廿日迄に申込。詳細同大學講習會宛。

海産動物學實地指導講習會

主催 廣島文理科大學
期間 自七月廿九日至八月七日（十日間）
場所 廣島文理大附屬臨海實驗所
資格、定員 中等校博物科擔任教員十五名
申込期限 七月十日迄に實驗費十圓を添現住所職氏名明記願書を講習係宛呈出のこと

嚴島夏季大學英語講習會

目的 中等校英語科教員のため英語英文學教授法に關する講義講演をなし英語教育に資す
期間 自八月一日至同七日（一週間）
場所 嚴島小學校講堂
手續 會費五圓を添え七月十日迄に廣島文理大英語英文學研究室內嚴島夏季大學宛申込

早稻田大學夏季講習會

期間 自七月二十三日至八月一日
場所 同大學
資格 中等教員を主とし缺員ある場合は一般受講者も可、定員各科約二百

夏季國語教育講座

主催 國學院大學
期間 自八月一日至八月七日
場所 同大學新講堂
資格 男女學歷を問はず
手續 會費五圓を添へ、隨意用紙に住所氏名職業明記、同大學（東京澁谷）教務課內國語教育講座係宛申込のこと

北海道夏季教育講習會

主催 札幌市教育會其他四團體
期間 自八月九日至同十五日（七日間）
場所 札幌一中講堂
内容 教育科（綴方教育九、一〇、一一日）地理科（一二、一三、一四、一五日）
手續 教育科二圓、地理科三圓の會費を添へ職名氏名出發縣名記入の申込書呈出のこと。照會は札幌市教育會宛、通信料添付。

東亞同文書院教授夏季講習講師派遣

目的 各都市又は學校等に於て夏季講習會開催の場合講師を派遣し日本内地各方面の支那認識に資せしむ。
其他 講習中講師の滞在費、日本内地在在より講習地迄の往復實費を支辨されたし、講師派遣は七月下旬より委細は同院宛

現代家事及裁縫夏季講習會

期間 自八月一日至同六日
場所 東京市牛込高等女學校
内容 家事科（東京工大助教其他）裁縫科（東京工大教授其他）委細は七月一日發行「家事及裁縫」参照

算術・手藝・唱歌・遊戲講習案内

主催 神奈川縣女子師範學校教科研究會
 神奈川縣女子師範學校 同窓會
 後援 神奈川縣教育會

一、講習並題目

改訂小學算術書の解説及小學校算術科の取扱について

女子學習院教授 柿崎兵部氏
文部省教科書編纂委員

小學校手工科手藝教材取扱の理論と實際

東京女子高等師範學校講師 神田つね氏

新要目に依る小學校に於ける遊戲教材の理論及實際

神奈川縣女子師範學校教諭 堀川静枝氏

二、講習時間

自八月二十日(四)日 至八月二十三日(日) 四日間

日	時	8-9	9-10	10-11	11-12	12-1	1-2	2-3	3-4
廿一日	開會	神田	神田	神田	神田	堀川	堀川	堀川	堀川
廿二日	柿崎	柿崎	柿崎	柿崎	柿崎	堀川	堀川	堀川	堀川
廿三日	神田	神田	神田	神田	神田	堀川	堀川	堀川	閉會
		食		晝					
廿三日	堀川	堀川	堀川	堀川	堀川	堀川	堀川	堀川	堀川

四、會場 横濱市中區立野(市電間門行大和町下車)神奈川縣女子師範學校

五、會費 金壹圓五拾錢也(當日受付)

六、申込及締切 葉書にて昭和十一年七月卅一日までに神奈川縣女子師範學校講習會宛

七、講習聽講資格 小學校女教員 但し算術科に限り男教員も歓迎す(會費五十錢)

八、宿泊 (實費) 希望者は申込書にその旨記入され度し

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可
昭和十一年六月三十日發行(毎月十五日發行) 第六五號

編輯後記

今月は、先般舉行された教育會創立五十周年記念式並びに回顧展覽會を中心として之に因む記事記録を網羅し、名付けて「五十周年記念號」とした爲御覽の通り大部のものになりました。又其の爲發行が普通よりずつと遅れて仕舞つた事を御詫びします。内容め一々に就いては今更此處に申すまでもなく總べて貴重な文字、恐らくは後世に傳ふべき資料の一つたる事を失はないでせう。

毎日蒸々する梅雨が續きますが、折角皆様の御健闘を御祈り申上げます。

廣告料金(原稿ノ切は毎月五日)

普通	一頁 拾圓	半頁 五圓
表紙	四分ノ一頁 參圓	
連續掲載の場合	は一頁拾五圓	
定價	一冊 拾錢	郵税五厘
	半ヶ年 五拾錢	郵税共
	一ヶ年 壹圓	

昭和十一年六月三十日印刷
昭和十一年六月三十日發行

編輯人 櫻井 諭
 印刷所 横濱活版舎
 發行所 神奈川教育會